

公衆無線LANのリスク、 個人情報がつつぬけに・・・



コンビニやカフェ、駅など、外出先で自由に使うことのできるインターネット回線としてフリーWi-Fi（ワイファイ）などの公衆無線LAN（ラン）を多く見かけるようになりました。緊急災害時には、携帯電話会社の回線が使えなくなることもあり、公衆無線LANを使ってネットに接続するなど、いざというときに役立つこともあります。「通信費の節約」「無料で使えるから」など、子どもたちも様々な理由で利用しているこの公衆無線LANの安全な利用方法について、考えてみましょう。

どんな危険性があるの？

公衆無線LANは、その回線を使っている他の誰かに通信内容を盗み見される危険性があります。また、通信内容を盗むために設置された悪質なアクセスポイントもあります。このような場所では、

- ① メッセージの内容や送信した画像等が見られてしまう
- ② 入力したアカウントやID、パスワード、個人情報等が見られてしまう

などの恐れがあります。特に、②が知られてしまうことで、アカウントが乗っ取られたり、サイトに登録しているクレジットカード情報が盗まれ、不正利用されるなどの被害も起きています。

公衆無線LANを安全に使うために

盗み見の仕組み自体は難しいものではなく、街中で提供されている一般的なお店や施設の公衆無線LANでも、必ずしも安全とはいえません。接続時にパスワードを必要としなかったり、セキュリティが保護されていない公衆無線LANの回線を使用したりすれば、その危険性は高まります。

また、スマホ等のWi-Fi設定が自動接続になっていると、悪意のあるWi-Fiスポットにつながってしまう危険性があるので、設定を見直すことも大切です。無料Wi-Fiスポットなどの公衆無線LANを利用するときは以下のことに注意してください。



《公衆無線LANの使用に当たって》

- ・アクセスポイントの名称（SSID）を確認し、店舗/施設等が提供しているものかを確認する。
- ・接続時にパスワードが不要とされるものは利用しない。
- ・アカウントやパスワード、個人情報の入力が必要なサイトは公衆無線LANでは使用しない。

指導の要点

公衆無線LANの普及はこれからも進み、子どもたちが利用する機会も増えると思われます。公衆無線LANがもっている個人情報の流出や悪用の恐れがある等のリスクを子どもたちに教え、全ての公衆無線LANが安全ではないということを意識させるようにしましょう。